



AUE News

2013年10月15日

第 70 号

編集・発行
愛知教育大学広報チーム
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



目次

● 行事予定(10月16-31日)

● トピックス

- ・訪問科学実験メンバーが「からくりオリンピック」で入賞
- ・松田学長が大村愛知県知事に信号機の設置を要望
- ・2013年度総合防災・防火訓練
- ・附属図書館「種」プロジェクト第2回講演会
- お知らせ・報告・投稿
- ・松田学長らが協定校のインドネシア国立大学を訪問

- ・2013年度日本衛生学会産業医・産業看護全国協議会 第11回四部会合同セミナー
- ・HATOプロジェクト先導的プログラム部門における説明会
- ・法人文書管理研修
- ・松田学長ら韓国・晋州教育大学校を訪問
- ・大学見学に静岡県立島田高校生徒、愛知県立常滑高校・横須賀高校保護者が来学
- ・日本学生陸上競技対校選手権大会
- ・「Campus Now! 第19号」を発行
- ・「創基140周年記念講演会」を開催
- ・催しもの案内

行事予定(10/16-31)

- 16日(水) 教職大学院運営協議会 (10:30～ 第五会議室)
財務委員会 (13:30～ 第五会議室)
教員人事委員会 (15:30～ 第五会議室)
- 21日(月) 経営協議会 (10:00～ KKRホテル名古屋)
- 22日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 26日(日) 保護者懇談会 (10:00～ 講堂ほか)
- 29日(火) 安全衛生委員会 (16:40～ 第五会議室)

トピックス

訪問科学実験メンバーが「からくりオリンピック」で入賞(10/6)

「TESフェスティバル2013」(トヨタ技術会主催)が10月6日(日)、トヨタスポーツセンター(豊田市)で開催され、本学から訪問科学実験に携わるメンバーが中心となって構成された「わくわくラップランド」チームが出場し、見事「グッときたで賞」を受賞しました。

毎年、トヨタ自動車の社内有志団体「トヨタ技術



会」と「豊田市」が共同で開く、ものづくりイ



ベント「わくわくワールド」のイベントの一部として、今年から「からくりオリンピック」が開かれました。これは、電気などを使わず、からくりの仕組みで物を動かし、ストーリー仕立てで動く装置を組み上げるもので、トヨタ社内から14

チーム、社外から4チームが参加しました。7月以降、学生たちが空き時間や夜に作業を続け、締め切り直前ようやく装置が完成。装置名は「あわてん坊のサンタクロース」で、手紙をサンタに送り、サンタがいろいろなアクシデントに遭遇しつつ、最終的にプレゼントを届けることができたのに、実は時期的に早すぎた…、というもの。

開催前日の専門家による事前審査、開催日の参加者による人気投票の結果で入賞作品が決定され、トヨタ社外からは唯一、本学から出展したからくり装置が入賞しました。残念ながら作製に携わった一部の学生は、教育実習のため参加できなかったのですが、授賞式では代表者が賞状を笑顔で受け取りました。受賞した装置は、11月23日（土）に本学で開催される「科学・ものづくりフェスタ@愛教大」において受賞記念展示・実演を行う予定です。



(理科教育講座 教授 岩山勉)

松田学長が大村愛知県知事に信号機の設置を要望(10/7)

松田正久学長は10月7日（月）午後、林郁夫知立市長とともに、大村秀章愛知県知事を県公館に訪ね、名鉄知立駅前の信号機を視覚障害者用の音響装置付きにするよう要望しました。同駅前の信号はスクランブル式で、知立市も昨年11月、音響装置付き信号機の設置を安城警察署に要望していましたが、視覚障害のある教員が12月に本学に着任し、同駅を利用することもあり、この日、学長、市長の連名で知事に早期設置を求めました。

知事に提出されたのは学長、市長名の要望書と知立市身体障害者福祉協議会会長名の要望書で、ほかに愛知県警察本部長、安城警察署長宛ての要望書は別途、郵送されました。いずれも日々混雑する駅前を障害者が安心して通行できるよう求める内容。面談で松田学長が「本学は障害者に優しい大学を目指しています。視覚障害のある教員の採用は今回が初めてですが、毎日この交差点を通ります。最新式の信号機を着任に間に合うよう、ぜひ配慮して設置していただきたい」と要望。林市長も「1日、数万人が利用する場所。よろしくお願いします」と述べました。



大村知事は「知立市から要望が出されており、愛教大の事情など必要性はよく分かりました。本年度の予算でできるだけ早く設置するようにしたい」と早期設置を約束しました。学長は「ありがとうございます。知立市ともに障害者に優しい街のモデルづくりができればいいと思います」と話していました。

(法人企画部長 中原道文)

2013年度総合防災・防火訓練(10/8)

10月8日（火）、2013年度の総合防災・防火訓練が、第一共通棟、第二共通棟、附属図書館、グラウンドなどで、昨年度に引き続いて地元井ヶ谷地区の地区長、市議会議員等が見学する中で行われました。

午後3時35分、東海地震予知情報が発表されたとの想定で訓練開始。佐藤博之総務課長が松田正久学長へ予知情報発表を報告。松田学長は非常災害対策本部（学生サポートセンター）の設置と本部要員の招集を佐藤課長に命じた後、非常災害対策本部で、理事、学系長、自衛消防隊各班長に対して「各自万全の体制で対応せよ」と号令、訓練の総指揮者を折出健二副本部長（総務担当理事）に命じました。

折出総指揮者は授業中の学生に対してグラウンドへの避難を命じ、午後3時50分、第一共通棟、第二共通棟で授業を受けていた学生に避難指示の放送が流





れ、1,016人の学生がグラウンドに避難。グラウンドでは、授業担当教員が学生一人ひとりの避難状況を確認し、グラウンドで待機していた野田敦敬学系長、西宮秀紀学系長、吉田淳学系長に報告。さらに、同じくグラウンドに待機していた三浦孝史避難誘導班副班長が集計結果を非常対策本部の三宅育夫避難誘導班長に無線機で報告した後、午後4時15分、清水秀己防災・防火委員会副委員長(創造科学系学系長)の終了宣言により避難訓練は終了しました。

また、事務職員等による防災・防火訓練では、午後3時55分に地震発生との想定で、緊急地震速報システムによる訓練用非常放送が流れた後、留守番を除く事務職員全員が非常災害対策本部前に集結し、折出総指揮者の号令の下、連絡調整班、避難誘導班、災害対策班、救出救護班に分かれ、真剣な表情で各自の任務に取り組みました。一連の訓練の後、消火栓と消火器の操作説明があり、実際に学生、職員が「火事だ!」と声を上げ、屋内消火栓や水消火器による実技訓練をしました。

最後に、松田学長が「災害が現実となった時はマニュアルどおりにいかないが、こうした訓練を通して、常に被害時の対応を意識している必要があります」と講評。非常災害対策本部の解除を宣言して、午後4時50分に訓練は終了しました。



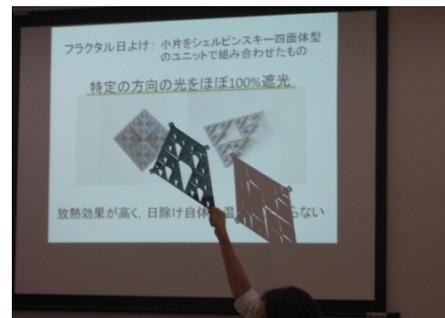
なお、今年度の総合防災・防火訓練に併せて、刈谷市危機管理課の協力を得て、午後1時30分から4時まで愛知県所有の起震車「なまず号」を借り受け、学生154人、教職員64人、地元住民5人の計223人が震度5から7までの揺れを体験。体験者からは「震度7の揺れでは何もできず怖かった」「体が浮く感覚で想像以上の揺れだった」などの感想が聞かれ、貴重な機会となりました。(総務課 企画評価室長 神谷和征)

附属図書館「種」プロジェクト第2回講演会(10/9)

エコキャンパス事業の一環である附属図書館「種」プロジェクト第2回講演会が、10月9日(水)午後1時から附属図書館2階のアイ♥スペースで行われ、教職員15人が参加しました。

講演の題目は「放射熱を抑えて快適な空間へーグリーンカーテンとフラクタル日除けー」で、講師は図書館前に設置されたフラクタル日除け開発メンバーの中村美紀保健環境センター研究員。

まず、気温データから今年の夏は暑かったことを示し、その後に、温熱感の原因である「気温」と「放射熱」の違いを理解するために、参加者に放射熱を感じてもらった実験をして、サーモカメラで放射熱を見ました。その後、グリーンカーテンやフラクタル日除けの特徴や効果が分かりやすく説明されました。特に、小片をつなぎ合わせた隙間だらけのフラクタル日除けが光の当たり方で隙間なく影ができることに、参加者は興味津々でした。本学のフラクタル日除けは小型ですが、御在所SAには大型のフラクタル日除けが設置されているそうです。



講演後にはフラクタル日除けの色についての質問等が活発に出され、アンケートでは「新しい発見や知識が増えました」「普段経験で感じているようなことを実験に基づいて理論的に話していただいて面白かったです」と回答、参加者は充実した時間を過ごした様子でした。

ただ、学生の参加者が無く、学生への広報が今後の課題になりました。(情報図書課 目録情報担当係長 福井千都)

松田学長らが協定校のインドネシア国立大学を訪問(報告)

9月4日(水)から10日(火)まで4泊7日の日程で、松田正久学長、岩崎公弥教育担当理事、稲葉みどり教授(日本語教育講座)と三浦秀樹秘書広報課秘書係長が本学協定校のインドネシアの国立スラバヤ大学とジョグジャカルタ大学を訪問しました。

今回は、国立スラバヤ大学大学院が主催する外国語教育の国際コンファレンスへの出席(招待)とジョグジャカルタ大学への訪問を兼ねたものです。また、本年度から始まった名古屋大学、三重大学との連携事業「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速的推進」によるインドネシアからの留学生獲得に向けたリクルート活動も併せて行いました。



国立スラバヤ大学では国際コンファレンスにおいて稲葉教授による日本語教育の発表、大学では岩崎理事から学生に向けて本学の紹介プレゼンテーションがあり、日程後半のジョグジャカルタ大学では、Rochmat Wahab 学長から大学の概要説明に続き、岩崎理事から本学の紹介と稲葉教授から「愛知教育大学における日本語教育の取り組み組について説明がありました。

ジョグジャカルタ大学では、松田学長は教員と理系の学生約100人に向けて、日本における科学教育と本学の取り組みについて、岩崎理事は社会専攻の学生約80人に向けて地理学についての講義を英語でそれぞれ90分行いました。学生は熱心に聴講し、たくさんの質問もあり有意義な時間でした。



両大学との意見交換では教職員の招へいや教員・学生の交流活動について活発な意見が出され、特に相互の留学生の「単位互換」が話題に上がり、今後調整を図りながら進めていくことを確認しました。
(秘書広報課 秘書係長 三浦秀樹)



2013年度日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会 第11回四部会合同セミナー(報告)

9月13日(金)、2013年度日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会、第11回四部会合同セミナーは、初めて教育現場である愛知教育大学で行われました。2004年度の国立大学法人化から10年、私立大も含めて安全衛生活動が伸びていますが、なお課題は多く、当学会でも、「大学における安全衛生問題研究会」が立ち上げられています。本学の都合により、9月13日に職場見学と改善のためのセミナー、26日(木)に発表会(名古屋国際会議場)となりましたが、セミナーには29人(非学会員の大学安全衛生担当者6人を含む)に参加していただきました。



セミナーは、当協議会齋藤政彦大会長による開会宣言、本学の安全衛生委員会委員長折出健二副学長より挨拶をいただき、久永直見前保健環境センター教授の司会で始まりしました。榊原からは、パワーポイント資料を示しながら「愛知教育大学の紹介」「愛知教育大学の安全衛生活動」「大学用アクションチェックポイント」「本

日の見学場所」について説明しました。その後、参加者は5班に分かれ学生スタッフに誘導されながら、教育研究の場である大学の特性に合わせたアクションチェックポイントを手に、化学研究室（中野博文理科教育講座教授、日野和之理科教育講座准教授）、鋳金工房（遠藤透美術教育講座教授）、木工工房（樋口一成美術教育講座教授）、科学ものづくり工房（岩山勉理科教育講座教授）、附属図書館事務室を巡回。安全衛生上の良好事例と改善が望まれる箇所と改善策を議論し、各班10分程度のプレゼンテーション資料を作成しました。グループワークの結果、教職員や学生によるさまざまな工夫とともに、転倒防止、安全装置、手根管症候群の予防など多くの課題の指摘と改善のための具体的な提案をいただきました。衛生管理者である榊原が看過していた課題もあり、参加型で行う職場巡視の効果を実感しました。30℃を超える残暑にも負けず、約8時間のセミナーを無事終了しました。



9月26日（木）、約50人が参加した発表会では、各班の報告に、フロアから多くの質疑や助言がありました。折出副学長からは、「今回のセミナーの成果を生かして安全衛生水準を高めたい」との謝辞が述べられ、圓藤吟史理事長から本学に感謝状が贈呈されました。

今回のセミナーで得た多くの学びを、今後の愛教大の安全衛生活動に生かしていくと共に、この場を借りて、本セミナーにご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

（愛知教育大学保健環境センター 榊原洋子）

HATOプロジェクト先導的プログラム部門における説明会（報告）

9月19日（木）に大学会館中集会室で「理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクト」に関する説明会を開催しました。参加各大学から計16人の教職員が参加し、本学の岩崎公弥教員養成開発連携センター長（理事）のあいさつの後、岩山勉教授（科学・ものづくり教育推進センター長）が本プロジェクトについて、その活動内容の説明を行いました。



参加者からは、

「訪問科学実験の準備に要する仕事量は膨大なのに愛知教育大学には多くの実績があり、どのように工夫しているのか」との質問がありました。また、「これだけの実績があれば、教科学等その先があるのではないかと興味がある」との発言がありました。



9月26日（木）には大学会館中集会室にて「特別支援教育の多面的・総合的支援プロジェクト」の説明会を開催しました。各大学から10人の教職員が参加し、本学の都築繁幸理事が本プロジェクトの活動内容の説明を行いました。その中で、「本プロジェクトは、教員養成に関する具体的な成果を残す必要がある」と述べました。サポートセンターへの学生の協力体制について参加者から質問があり、障害児教育講座に所属する学生だけでなく一般の学生にも参加を促し、実際に体験することで、将来教員になった時に役立つものにすることを確認しました。

両プロジェクトについて、各大学の参加者は、説明会の内容を持ち帰り、連携の可能性について検討することになりました。今回の説明会は今後、両プロジェクトを推進させることで、全国の教員養成系大学・学部と同様の取り組みが普及する第一歩となりました。



【HATOプロジェクトについて】

北海道教育大学（H）、愛知教育大学（A）、東京学芸大学（T）、大阪教育大学（O）の強みを生かしつつ教員養成機能の強化・充実を図ります。4 大学に設置した教員養成開発連携センターが「大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築—教員養成ルネッサンス・HATOプロジェクト—」の活動拠点となり、全国の教員養成系大学・学部と連携・協力を促進し、教員養成の諸課題に積極的に対応することを目的としています。

本学の教員養成開発連携センターにIR部門、研修・交流支援部門および先導的実践プログラム部門を設置しています。また、先導的実践プログラム部門では「理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクト」と「特別支援教育の多面的・総合的支援プロジェクト」を企画しており、本学における特徴ある取り組みを進め、全国の教員養成系大学・学部に普及させることを目指しています。

（教育創造開発機構運営課 総務・講習グループ プロジェクト担当 近藤雄作）

法人文書管理研修(報告)

9月25日（水）、26日（木）の両日に、昨年に続き2回目となる文書管理担当者・一般職員対象の法人文書管理研修を行い、計105人が参加しました。

今回は、2012年度法人文書管理状況から見た問題点を挙げ、文書管理上での注意点を示して参加者に一層の理解を求めました。また、実際にファイル管理簿の更新作業をパワーポイント画面に映し出し、手順の説明をしました。



現在、本学では1万冊を超える法人文書ファイルを保有しています。それを法令および本学規則に沿って適正に管理し、確実に管理簿へ反映させるのは簡単なことではありません。しかし、機密性の高い文書や個人情報を含む文書が存在すること、法令等に基づきインターネットを通してこの管理簿が学外へ公開されていること等、公文書管理に係わる職員としておろそかにできない業務である旨、理解を深めることができました。

最後に、ファイル管理簿の更新、ファイル数の確定、保存期間満了ファイルの回収他と続く今後のスケジュールについて話し、約1時間の研修を終えました。

（総務課文書法規担当係長 青山由紀）

松田学長ら韓国・晋州教育大学校を訪問(報告)

9月29日（日）～10月1日（火）、松田正久学長、宮川秀俊国際交流センター長、前川由光機構運営課副課長が、本学の協定校である韓国の晋州教育大学校を訪問しました。

この訪問では、同大学の90周年記念式典への出席や両大学における単位互換に係る覚書の調印式のほか、名古屋大学・三重大学との連携事業「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速度的推進」の一環として、タイ（8月下旬）、インドネシア（9月初旬）に引き続き、留学生獲得に向けたリクルート活動を行いました。



90周年記念式典は、晋州教育大学校講堂において行われ、本学のほか二つの協定校（Cebu Normal University（フィリピン）、青島大学（中国））からの出席者を含む招待客や多数の学生が出席、同校のオーケストラの演奏、総長あいさつ、各協定校からの記念品贈呈に続き、招待者からの祝辞が述べられました。松田学長からは、「晋州教育大学校は、本学の協定校の中でも、学生交流をはじめ、さまざまな交流が連綿と行われ

ており、協定校のパイオニアです」と話し、併せて、9月27日（金）に行われた9月卒業式での告辞を引用し、「両校の学生たちが、双方の国の歴史を学ぶことにより、ますます絆を深めてほしい」とお祝いの言葉が贈られました。

単位互換に係る覚書の調印式は、晋州教育大学校から、金総長のほか、教務処長、学生支援処長、企画研究処長が出席、招へい教職員、共同研究者と学生交流プログラムの責任教員として何度も本学を訪れている姜洪在准教授の進行により挙行されました

金総長から、90周年記念式典への出席やこれまでの交流に対する謝辞と併せて、「これからも発展的な協定となるよう互いに協力しましょう」といった連携強化の言葉を受け、松田学長が「海外の大学との単位互換は、今回の晋州教育との締結が初めてであり、これを契機にますます教師教育をベースにした交流が進むよう努めていきたい」と話し、参加者が見守る中、両学長が署名して、覚書が締結されました。

リクルート活動は、本学への留学を希望する晋州教育大の学生約20人と現在、同大学へ留学中の本学学生3人が参加、宮川センター長から、本学概要と留学生用の日本語補講を中心にプレゼンテーションが行われ、説明後の質疑応答では、奨学金や日本語補講のレベルについて質問が寄せられ、本学への留学に対する関心の高さがうかがわれました。



最後に、宮川センター長から、改めて、本学から留学中の3人の学生が紹介され、「3人の学生を通じて本学の情報を収集してください。また、留学中の支援や積極的な交流をお願いします」と締めくり、1時間のプレゼンテーションを終了しました。

また、訪問の初日には、本学に留学経験のある元留学生5人と現在、晋州教育大に留学中の本学学生3人、招へい研究者等で本学に滞在経験のある李栄晩教授と姜洪在准教授を招いて、懇談会を実施。親交を深めるとともに、元留学生からは、現在の状況、本学学生からは、授業や留学生活についての話を聞くことができ、とても有意義な会となりました。

(教育創造機構運営課 副課長 前川由光)



大学見学に静岡県立島田高校生徒、愛知県立常滑高校・横須賀高校保護者が来学(報告)

静岡県立島田高校の2年生41人が、10月4日（金）午前、大学見学に訪れました。

本部棟第五会議室での説明会では、大学紹介DVDと在学生からのメッセージ映像の上映の後、生徒から「現代学芸課程では公務員と企業の就職状況はどんな割合ですか?」「全体で高校の教員になる人は何人くらいですか?」「部活とサークルの違いは?」などの質問が出され、担当職員からそれぞれ回答しました。この後、職員の案内による施設見学をして、学食での昼食を体験し、午後には学内を自由に見学しました。



引き続き、折出健二理事・副学長が「教育の仕事を作り出す学び、あなたもその仲間に」と題して、「なぜ大学の進学を考えるのか」「自分がどう成長していきたいのか」「大学での学び方」などについて約30分間、大学からのメッセージとして説明。生徒たちは満足した様子で帰路にきました。

10月8日（火）午後には愛知県立常滑高校の保護者37人と教員2人が来学。第五会議室での説明会で、大学紹介DVDを視聴した後、同校出身の4年生の学生が参加して、自作のパワーポイント資料を使って「地元常滑からの交通アクセスは少し苦労しましたが、教員になりたい人には仲間と一緒に頑張れるメリットがある大学」などとキャンパスライフを紹介しました。その後の施設見



学では、ガラス工房で教員によるガラス造形の実演を交えた学科の説明を受けた保護者は、「愛教大に造形のコースがあることを知って、多彩な選択ができることが分かりました」と感想を話していました。

また、10日（木）午前には県立横須賀高校の保護者67人と教員6人が訪問。大学説明では同校出身の4年生2人が、大学の授業やキャンパスライフをそれぞれの体験を基に発表。本学を選んだ理由を「中学生ごろから教員になりたくて、地元で先生になるなら愛教大」と話し、「この大学で良かったのは、就職サポートがしっかりしている点。教員採用試験や面接の練習を繰り返し受けることができ、心強かった。キャリア支援課には大変お世話になりました」と話し、数日前に発表された教員採用試験の結果について「おかげさまで、合格することができました」と告げると参加者から祝福する拍手が沸き起こりました。その後は、第一共通棟、ガラス工房などを見学し、第一福利施設の学食で昼食。帰り際、バスの車窓から学生寮や運動施設も職員による説明を受け、この日の見学を終えました。



日本学生陸上競技対校選手権大会(報告)

9月6日（金）～8日（日）に、「第82回日本学生陸上競技対校選手権大会」が国立競技場で行われました。本学からは、男子4人、女子16人が標準記録を突破し、参加しました。

その結果、次の皆さんが入賞しました。

- ◆女子400M 3位 木引悠起子（初等・保健体育 3年）
- ◆女子走高跳 5位タイ 相馬由佳（初等・保健体育 2年）
- 堂之下藍（初等・保健体育 4年）
- ◆男子三段跳 5位 佐脇 匠（中等・保健体育 4年）

なお、各個人の詳細な結果は、下記のURLからご覧いただけます。

<http://www.iuau.jp/ev2013/82ic/mast005.html#DAN0022>

「Campus Now! 第19号」を発行(お知らせ)

愛知教育大通信「Campus Now! 第19号」が10月1日（火）発行されました。この広報誌は、本学のキャンパスライフを紹介するため、教職員と学生が協力して企画・編集に当たり、春と秋の年2回発行しています。

今号の表紙を飾っているのは、クラブ・サークルなどのユニフォーム姿の学生たち。裏表紙では「愛教大生のお弁当」を特集。内容は、イベント情報をはじめ、この半年の学生の皆さんの活躍、先輩からのメッセージ（沖縄県副知事・琉球大学名誉教授の高良倉吉さんによる寄稿）、社会人の先輩からのメッセージ、研究室訪問やユニーク授業の紹介、新任教員の紹介、国際交流、生協学生委員がレポートした学内の「気になるスポット」、部活・サークル紹介など。また、今号から職員紹介のページも新設して、さらに多彩な内容になりました。

配布は、附属図書館や生協、学生サポートセンターなどで行っていますので、手にとってあなたのキャンパスライフにご活用ください。（広報チーム）



「創基 140 周年記念講演会」を開催(お知らせ)

今年は、愛知教育大学の淵源である愛知県養成学校が1873年に開設されてから140周年にあたります。これを記念して、12月4日（水）に愛知県にゆかりのあるノーベル物理学賞受賞者の益川敏英博士をお迎えして特別講演会を開催します。

本学の歴史を振り返るとともに、これからの「学び」について理解を深めます。多くの方の参加をお待ちしています。

開催日時：2013年12月4日（水）13：30～15：00

会場：愛知教育大学講堂ホール

テーマ：「これからの教育と科学と語る」

講師：益川 敏英 博士

内容：益川博士と本学の松田正久学長の対談形式による講演会。

学生諸君へ「学びに対する意識」と「将来に向けた役割」についてのメッセージを発信します。

対象：本学学生・附属高校生・教職員および一般の方

参加費：無料

申込方法：会場準備の都合により、「事前申し込み」。(定員1000人、先着順)

申込先：E-mail：140kinen@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

Fax：0566・26・2170

(ファクスの場合、申込書は下記ホームページから印刷してご利用ください。<http://www.aichi-edu.ac.jp/>)

問い合わせ：学生・教職員：学生支援課 吉田 TEL0566・26・2172

一般・報道関係：秘書広報課 小林 TEL0566・26・2738

催しもの案内

◆愛知教育大学教育実践研究科（教職大学院）「フォローアップ研修会」

11月2日（土） 13:00～18:00 参加無料 要予約

ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）1002・1003会議室

本学教育実践研究科（教職大学院）の修了生支援の取組を一般公開。

内容：12:30 受付開始

基調講演：中妻雅彦（教育実践研究科教育実践専攻代表・教授）

「仮題：教職大学修了者に望むこと」

実践発表及び講評：磯村千加子（安城市立桜井中学校，2期生）

阿知和尚未（名古屋市立吹上小学校，3期生）

伊藤幹也（稲沢市立平和中学校，4期生）

講評は来賓（愛知県教育委員会）

「教師の学び」に関する研究報告：宮下 治（教授）

「仮題：修了生の学びとは－調査結果から見たもの－」

グループ経験交流会（参加者・班別ディスカッション）

問い合わせ：教務課 TEL0566・26・2679

E-mail：support_ml@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

ホームページ：<http://www.aichi-edu.ac.jp/kyoshoku/>

◆UNOセレクション Vol.6 「杉本充作品展～古典画法を現代に～フレスコと礮砂カゼインテンペラ技法による作品展」

10月24日（木）～30日（水） 10：00～17：00（最終日は～16：00） 入場無料

刈谷駅前商店街ギャラリー「スペースAqua」

本学OBで画家・壁画家の杉本充氏の個展。イタリアのルネサンス初・中期の壁画の技法「フレスコ画」、油絵が盛んになる前の西洋画法「テンペラ」。いずれも古典法と呼ばれていますこれらの画法を使った作品を展示。

問い合わせ：刈谷駅前商店街振興組合 澤田さん TEL0566・21・1109

◆第32回彫刻展

10月29日（火）～11月4日（月）9：30～18：00（最終日は～17：00） 入場無料

市民ギャラリー矢田(名古屋市東区大幸南1) 4階 第1展示室
愛知教育大学彫刻研究室 在学生・卒業生による展覧会。
問い合わせ：市民ギャラリー矢田 TEL 052・719・0430
代表者 中西さん E-mail:chokokuten2013@yahoo.co.jp

編集後記

「創基 140 周年記念講演会」の告知を大学HPや学生向け電子掲示板、学内掲示版などで開始。10月にはノーベル賞発表の時期でもあり、2008年物理学賞受賞者の益川博士の明るいキャラクターのおかげもあって、参加申込が相次いでいます。会場の都合で事前予約になりましたが、ぜひ多くの学生、先生方、地元の方々にも参加していただきたいと思います。「これからの“明るい”教育と科学」を考える機会になればと、準備にも力が入ります。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。
メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二